令和5年度福井県立金津高等学校 学校評価総合シート

項　目 〔校務分掌〕	重点目標	具体的取組	現状と課題	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	回答者
1 教育課程・学習支援 〔教務部〕 〔授業改善・IPT企画室〕	生徒が自ら課題を探究し、主体的・協働的に学ぶ態度の育成に努める。	①主体性・自立心・探究心を育てるために、他者と協働して学びを深め、コミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を高める学習の充実に努める。	教職員は主体的・協働的な学びを育むための授業作りに積極的に取り組んでいる。昨年度、生徒の評価は全体としては高かったが、2年生は他学年に比べ低い評価だった。 保護者からみた子どもの学習状況に対する満足度は、目標値には達しなかった。3年生保護者の満足度は高かったが、1・2年生の結果が低かった。生徒の学習に対する取組状況について学習時間調査などの情報を学年通信やホームページを活用し、保護者と共有する。	【取組指標】 主体性・自立心・探究心が育つ授業作りに積極的に取り組む。	日々の授業の中で、生徒が主体的・協働的に学ぶ授業作りに A:積極的に取り組んでいる。 B:ある程度取り組んでいる。 C:あまり取り組んでいない。 D:取り組んでいない。	A＋Bの合計が80%未満の場合は、改善策を検討する。	教職員
				【目標指数】 A＋Bの合計が80%以上			
				【満足度指標】 日々の授業の取組について把握する。	私は、日々の授業の中で自分の意見を伝えたり、他者の意見を聞いて自分の意見をまとめ伝えたりすることが A:しっかりできている。 B:ある程度できている。 C:あまりできていない。 D:ほとんどできていない。	A＋Bの合計が80%未満の場合は、説明の方法を検討する。	生徒
				【目標指数】 A＋Bの合計が80%以上			
				【満足度指標】 子どもの学習に対する取組を保護者の視点から把握する。	子どもは、学習を A:しっかりやっていると思う。 B:ある程度やっていると思う。 C:あまりやっていないと思う。 D:やっていないと思う。 E:わからない(判断できない)。	A＋Bの合計が80%未満の場合は、家庭との連携を強めるとともに、改善策を検討する。	保護者
				【目標指数】 A＋Bの合計が80%以上			
		②生徒が目的意識を持ち、自主的・自律的に放課後を活用できるよう内容の精選を図る。	放課後活用の内容を充実させ、生徒が積極的に取り組む効果的な内容を取り入れていく。部活動・進路実現に向けた学習等について、生徒自らが自主的・自律的に計画を立てて取り組むことができるよう意識付けを行うとともに、教職員間で情報を共有し協力体制を整える。	【取組指標】 目的意識を持ち取り組むことができるよう内容を工夫する。	放課後活用の内容について、生徒が目的意識を持って自主的・自律的に取り組むことができるよう A:積極的に働きかけている。 B:ある程度働きかけている。 C:あまり働きかけていない。 D:働きかけていない。	A＋Bの合計が85%未満の場合は、改善策を検討する。	関係教職員
				【目標指数】 A＋Bの合計が85%以上			
				【成果指標】 日々の取組状況について把握する。	私は、放課後活用の時間について A:積極的に取り組んでいる。 B:ある程度取り組んでいる。 C:あまり取り組んでいない。 D:取り組んでいない。	A＋Bの合計が85%未満の場合は、取組体制、指導方法を検討する。	第1・2学年生徒
				【目標指数】 A＋Bの合計が85%以上			
				【成果指標】 日々の取組状況について把握する。	私は、放課後の時間を部活動や進路実現のための学習の時間として A:有効に活用している。 B:ある程度活用している。 C:あまり活用していない。 D:活用していない。	A＋Bの合計が85%未満の場合は、取組体制、指導方法を検討する。	第3学年生徒
				【目標指数】 A＋Bの合計が85%以上			

項　目 〔校務分掌〕	重点目標	具体的取組	現状と課題	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	回答者
2 生徒支援 〔生徒支援部〕	特別活動や部活動の活性化を図り、豊かな人間性と自主的・実践的態度の育成に努める。	①登校指導や頭髪服装指導をとおして、挨拶の励行、時間厳守、身だしなみなどの基本的生活態度の育成に努める。	毎朝の登校指導や生徒会の活動などをとおして、挨拶に代表される基本的生活態度が身に付いている生徒の割合は高い。生徒一人ひとりが意義を自覚し、さらに積極的に場に応じた挨拶が学校外においてもできるよう、様々な機会をとおして支援を継続していく。また、時間厳守や身だしなみなど、ルールやマナーを積極的に守ろうという態度を育成する。	【取組指標】 生徒をはじめ学校内外の方々への挨拶を積極的に行う。 【目標指数】 A＋Bの合計が90%以上	生徒をはじめ学校内外の方々への挨拶を A:積極的に行っている。 B:ある程度行っている。 C:あまり積極的には行っていない。 D:行っていない。	A＋Bの合計が90%未満の場合は、改善策を検討する。	教職員
				【成果指標】 先生や友人をはじめ学校内外の方々への挨拶を積極的に行う。 【目標指数】 A＋Bの合計が90%以上	私は、先生や友人をはじめ学校内外の方々への挨拶を A:積極的に行っている。 B:ある程度行っている。 C:あまり行っていない。 D:行っていない。	A＋Bの合計が90%未満の場合は、改善策を検討する。	生徒
				【満足度指標】 進んで挨拶ができる。 【目標指数】 A＋Bの合計が90%以上	子どもは、先生や友人をはじめ学校内外の方々への挨拶を A:進んで挨拶ができている。 B:ある程度挨拶ができている。 C:あまり挨拶ができていない。 D:挨拶ができていない。 E:わからない(判断できない)	A＋Bの合計が90%未満の場合は、改善策を検討する。	保護者
		②学校行事やクラス活動、部活動などに積極的に取り組ませ生徒の自主的・実践的態度とリーダーの育成に努める。	多くの生徒が自主的・積極的に学校行事や部活動に取り組んでいるが、主体性や積極性に欠け、自己を十分生かし切れていない傾向の生徒もみられる。生徒自身が役割を主体的、積極的に担い、その責任を他者と協力して果たすことにより、自己肯定感や自信を持てるよう支援する。	【取組指標】 生徒が個々の役割や責任を果たせるよう支援する。 【目標指数】 A＋Bの合計が90%以上	生徒に A:積極的に支援している。 B:ある程度支援している。 C:あまり支援していない。 D:支援していない。	A＋Bの合計が90%未満の場合は、改善策を検討する。	教職員
				【成果指標】 自分の役割を積極的かつ主体的に行なう。 【目標指数】 A＋Bの合計が90%以上	学校行事や部活動において、自分の役割を意識し、積極的な取組が A:できている。 B:ある程度できている。 C:あまりできていない。 D:できていない。	A＋Bの合計が90%未満の場合は、改善策を検討する。	生徒
				【満足度指標】 子どもは、学校行事や部活動等に楽しく参加する。 【目標指数】 A＋Bの合計が90%以上	子どもは学校行事(学校祭や球技大会等)・部活動等に A:大変、充実していた様子である。 B:充実していた様子である。 C:あまり充実した様子ではない。 D:充実した様子ではない。 E:わからない(判断できない)	A＋Bの合計が90%未満の場合は、改善策を検討する。	保護者
		③いじめの未然防止、早期発見・解決に対する教職員の意識の定着・高揚に努める。	すべての教職員がいじめ問題について正しい認識と理解のもとで、日々の教育活動をさらに組織的に進めていく。	【意欲・取組指標】 いじめ問題に対して正しく認識し、適切に対処する。 【目標指数】 A＋Bの合計が100%	いじめの未然防止、早期発見、事案対処に向けて A:十分に取り組んでいる。 B:ある程度取り組んでいる。 C:あまり取り組んでいない。 D:ほとんど取り組んでいない。	A＋Bの合計が100%未満の場合は、改善策等を検討する。	教職員

項　目 〔校務分掌〕	重点目標	具体的取組	現状と課題	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	回答者
3 進路支援 〔進路支援部〕	生徒一人ひとりの学力の向上と進路意識の高揚を図り、主体的に進路を切り開く態度の育成に努める。	①進路行事の企画や模試の実施・分析を行うことで主体的な進路選択ができる力を育むとともに進路意識の高揚を図る。	昨年度、生徒・保護者がそれぞれ0.1,0.5ポイント、目標値を下回った。第2学年において数値が低かった（83.3％）のはアンケートの時期に主な行事がほとんど行われていなかったことが要因として考えられる。保護者はE(:わからない）選択者19名を除くと92.6％と目標値を上回る。学年会や関連部署と連携し、推薦入試対策等を実施する。模試の事前事後指導を学習支援サービス等も活用しながら効果的に行えるようにしていきたい。	【取組指標】 各種講座を計画的に実施し、模試の分析を積極的に行うことで生徒の学力向上につなげる。	各種講座の実施や模試分析の活用等、進路支援に関することを A:積極的に行っている。 B:ある程度取り組んでいる。 C:あまり取り組んでいない。 D:取り組んでいない。	A＋Bの合計が90％未満の場合は、改善策を検討する。	教職員
				【目標指数】 A＋Bの合計が90％以上			
				【成果指標】 土曜講座・大学入試対策講座等に参加し、模試を活用することで学力の向上を図る。	各種講座（土曜講座・大学入試対策講座等）への参加や、模擬試験の活用は A:学力の向上に十分役立った。 B:学力の向上におおむね役立った。 C:学力の向上にあまり役立たなかった。 D:学力の向上に役立たなかった。	A＋Bの合計が85％未満の場合は、実施方法、支援方法を検討する。	生徒
				【目標指数】 A＋Bの合計が85％以上			
				【満足度指標】 補習等、生徒の学力向上のための取組が十分に行われている。	金津高校では土曜講座や休業中の補習等、学力向上等進路支援に関する取組が A:十分に行われていると思う。 B:おおむね行われていると思う。 C:やや不十分であると思う。 D:不十分であると思う。 E:わからない(判断できない)	A＋Bの合計が90％未満の場合は、取組体制を検討する。	保護者
				【目標指数】 A＋Bの合計が90％以上			
		②学年通信や進路だよりの発行、研修会等をとおして、生徒・保護者への進路情報の提供に努める。	昨年度、教職員、生徒、保護者のすべてで目標値を越えることができた。オープンキャンパスや各種体験活動が多く再開されると思うので、積極的に参加を勧めるとともに、各学年や時期に応じた的確な情報提供を行っていきたい。	【取組指標】 生徒の志望を把握し、きめ細かで適切なガイダンスを行う。	進路に関するガイダンスや情報提供を、生徒や保護者に A:積極的に行っている。 B:おおむね行っている。 C:あまり行っていない。 D:ほとんど行っていない。	A＋Bの合計が90％未満の場合は、改善策を検討する。	教職員
				【目標指数】 A＋Bの合計が90％以上			
				【成果指標】 生徒一人ひとりが自分の進路について主体的・積極的に考える。	進路だよりや進路情報誌の提供、オープンキャンパスへの参加等は自らの進路決定に A:十分役立った。 B:おおむね役立った。 C:あまり役に立たなかった。 D:全く役に立たなかった。	A＋Bの合計が85％未満の場合は、支援方法、取組体制を検討する。	生徒
				【目標指数】 A＋Bの合計が85％以上			
				【満足度指標】 進路情報や模試結果の提供を十分に受けている。	学校からの進路情報の提供や模試結果の提供が A:十分に行われていると思う。 B:おおむね行われていると思う。 C:やや不十分であると思う。 D:不十分であると思う。 E:わからない(判断できない)	A＋Bの合計が70％未満の場合は、生徒や家庭への進路情報提供を強化する。	保護者
				【目標指数】 A＋Bの合計が70％以上			

項　目 〔校務分掌〕	重点目標	具体的取組	現状と課題	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	回答者
4 中高一貫教育 (中高一貫教育)	中高一貫教育の特性を活かした教育の充実に努める	①中高連携に関する事業内容や取組についてホームページや広報紙等を活用し積極的に広報するとともに中高の連携を強め内容の精選を図る。	中高一貫教育に関わる事業に対する連携生徒の評価は高かった。しかし、連携中学校の教員評価は、目標指数を上回ったものの評価は高くなかった。保護者の満足度は前年度に比べ高くなっている。 引き続き事業内容について連携中学校との連絡・調整を密に行うとともに、中学校や保護者に対しさまざまな取組を積極的に広報していく。	【取組指標】 中高一貫教育の適切な実践に努める。 【目標指数】 A＋Bの合計が85%以上	中高一貫教育の実践(サマーハイスクール・中1生対象学校見学会・中2生対象進路研修会など)について A:適切である。 B:ほぼ適切である。 C:やや不適切である。 D:不適切である。	A＋Bの合計が85%未満の場合は、改善策を検討する。	教職員
				【成果指標】 中高一貫教育の実践について中学校の教員の視点から把握する。 【目標指数】 A＋Bの合計が85%以上	中高一貫教育の実践(サマーハイスクール・中1生対象学校見学会・中2生対象進路研修会など)について A:適切である。 B:ほぼ適切である。 C:やや不適切である。 D:不適切である。	A＋Bの合計が85%未満の場合は、改善策を検討する。	連携中学校 関係教員
				【成果指標】 中高一貫教育の実践について中学校の生徒の視点から把握する。 【目標指数】 A＋Bの合計が85%以上	中高一貫教育の実践(サマーハイスクール・探究学習など)について A:しっかり取り組むことができている。 B:ある程度取り組むことができている。 C:あまり取り組むことができていない。 D:ほとんど取り組むことができていない。 E:欠席したのでわからない。	A＋Bの合計が85%未満の場合は、改善策を検討する。	連携中学校 連携クラス 3年生徒
				【満足度指数】 中高一貫教育の実践について保護者の視点から把握する。 【目標指数】 A＋Bの合計が85%以上	中高一貫教育の実践(サマーハイスクール・探究学習など)について A:適切である。 B:ほぼ適切である。 C:やや不適切である。 D:不適切である。	A＋Bの合計が85%未満の場合は、改善策を検討する。	連携中学校 連携クラス 保護者
		②中学校での連携授業において、ティームティーチングを実施し、丁寧でわかりやすい指導に努める。	数学は週4時間、英語は週1時間実施している授業内で、ティームティーチングを取り入れ、丁寧でわかりやすい授業を行うと共に、高校の授業内容につながる発展的な内容に取り組む。また、進度等で不安を感じている生徒に対し、中学校教員と連携を取りながら、個々の生徒に応じた学習支援を行う。	【取組指標】 連携授業において丁寧でわかりやすい指導に努める。 【目標指数】 A＋Bの合計が85%以上	中学校での連携授業について、丁寧でわかりやすい授業になるよう A:積極的に取り組んでいる。 B:ある程度取り組んでいる。 C:あまり取り組んでいない。 D:取り組んでいない。	A＋Bの合計が85%未満の場合は、改善策を検討する。	連携授業 関係教員
				【成果指標】 連携授業の取組について中学校の教員の視点から把握する。 【目標指数】 A＋Bの合計が85%以上	連携授業に関する取組内容について A:適切である。 B:ほぼ適切である。 C:やや不適切である。 D:不適切である。	A＋Bの合計が85%未満の場合は、改善策を検討する。	連携中学校 関係教員
				【成果指標】 連携授業の取組について中学校の生徒の視点から把握する。 【目標指数】 A＋Bの合計が85%以上	連携授業(数学・英語)の内容について A:ほとんど理解できている。 B:ある程度理解できている。 C:あまり理解できていない。 D:ほとんど理解できていない。	A＋Bの合計が85%未満の場合は、改善策を検討する。	連携中学校 連携クラス 3年生徒
				【満足度指数】 連携授業の取組について保護者の視点から把握する。 【目標指数】 A＋Bの合計が85%以上	連携授業(数学・英語)の取組について A:適切である。 B:ほぼ適切である。 C:やや不適切である。 D:不適切である。	A＋Bの合計が85%未満の場合は、改善策を検討する。	連携中学校 連携クラス 保護者

項　目 〔校務分掌〕	重点目標	具体的取組	現状と課題	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	回答者
5 保健管理 〔保健部〕	健全な心身を育む生活習慣の確立と美化・環境保護に対する意識向上に努める。	①家庭と連携し、心身の健康に関する知識を深めるとともに、感染症対策としての毎朝の検温・体調チェックをとおして、自己の健康管理能力を育てる。	学校全体で日常の健康管理は定着してきているが、生徒の健康管理意識をさらに向上させる必要がある。心身の健康に配慮が必要な生徒に気を配り、健康管理と生徒理解に向け、家庭との連携や教員間の共通認識をより一層深めていく。	【取組指標】 家庭や保健室・教育相談係と連携し、心身の健康に配慮が必要な生徒の把握と対応に努める。	クラスの生徒の心身の健康管理に A:積極的に取り組んでいる。 B:ある程度取り組んでいる。 C:あまり取り組んでいない。 D:取り組んでいない。	A＋Bの合計が90％未満の場合は、改善策を検討する。	教職員 (クラス担任)
				【目標指数】 A＋Bの合計が90％以上			
				【成果指標】 心身の健康について自己管理をする。	心身の健康を保持増進するための生活習慣が A:しっかり身についている。 B:ある程度身についている。 C:あまり身についていない。 D:身についていない。	A＋Bの合計が90％未満の場合は、改善策を検討する。	生徒
				【目標指数】 A＋Bの合計が90％以上			
				【満足度指標】 子どもは家庭でも心身の健康管理に努めている。	子どもは家庭で心身の健康管理を A:しっかり行っていると思う。 B:ある程度行っていると思う。 C:あまり行っていないと思う。 D:全く行っていないと思う。	A＋Bの合計が80％未満の場合は、改善策を検討する。	保護者
				【目標指数】 A＋Bの合計が80％以上			
		②美化意識の向上と主体的な清掃活動の実践力が育つ支援に努める。	生徒は真面目に清掃に取り組んでいるが、監督者の指示に従った清掃に終わりがちである。清掃方法や重点項目を示しながら、生徒の美化意識を高め、主体的に清掃に取り組めるよう支援する。 さらに、美化意識を育てることにより、自分の学習環境を整えるように取り組ませる。	【取組指標】 校舎内外の美化意識を高めるため清掃活動に積極的に取り組ませる。	生徒が主体的に清掃活動できるような支援を A:積極的に行っている。 B:ある程度行っている。 C:あまり行っていない。 D:行っていない。	A＋Bの合計が90％未満の場合は、改善策を検討する。	教職員
				【目標指数】 A＋Bの合計が90％以上			
				【成果指標】 校舎内外の清掃活動に対し主体的に取り組む。	日々の清掃に、主体的に A:取り組んでいる。 B:ある程度取り組んでいる。 C:あまり取り組んでいない。 D:取り組んでいない。	A＋Bの合計が90％未満の場合は、改善策を検討する。	生徒
				【目標指数】 A＋Bの合計が90％以上			
				【満足度指標】 子どもは、自分の学習環境を整えようと努力している。	子どもは、家庭で自分の学習環境を整えることを A:しっかり行っていると思う。 B:ある程度行っていると思う。 C:あまり行っていないと思う。 D:全く行っていないと思う。	A＋Bの合計が60％未満の場合は、改善策を検討する。	保護者
				【目標指数】 A＋Bの合計が60％以上			
		③気がかりな生徒に対する理解と適切な対応に努める。	多様化・複雑化している生徒の心の悩みに対応するため、各教員が生徒理解と支援に努めるとともに、相互に共通認識を深め十分に連携を図る。	【取組指標】 生徒一人ひとりに対する理解と支援に努めている。	生徒に対する理解と支援を A:十分に行っている。 B:ある程度行っている。 C:あまり行っていない。 D:行っていない。	A＋Bの合計が100％未満の場合は、改善策を検討する。	教職員
				【満足度指標】 子どもは不安なことや悩みがある場合に相談できる人がいる。 A＋Bの合計が80％以上	不安なことや悩みがあるときに気軽に相談できる人が A:たくさんいる B:ある程度いる C:あまりいない D:まったくいない	A＋Bの合計が80％未満の場合は、改善策を検討する。	生徒

項　目 〔校務分掌〕	重点目標	具体的取組	現状と課題	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	回答者
6 開かれた 学校づくり 〔図書渉外部〕	学校と保護者・地域社会との連携の強化および教育活動の広報に努める。	①ホームページやPTAだよりを通して、本校教育の取組を積極的に広報するとともに、保護者や地域社会と連携した活動の充実に努める。	ホームページやPTAだよりを通して、学校の教育活動やPTA活動についての情報を発信し、確実に保護者に伝わるよう努める。 特にホームページについては、学校行事や部活動など、生徒の学校生活の様子を十分知ってもらえるように、情報量の増加と内容の充実に努めなければならない。	【取組指標】 生徒を通じて、学校の教育活動が保護者へ伝わるように働きかける。 【目標指数】 A＋Bの合計が90%以上	PTAだよりなどの配布の際に、保護者へ伝わるような工夫を A:毎回行った。 B:時々行った。 C:あまり行わなかった。 D:行わなかった。	A＋Bの合計が90%未満の場合は、改善策を検討する。	教職員 (クラス担任)
				【満足度指標】 ホームページやPTAだよりをとおして、学校やPTA活動の様子がわかったとする人数の増加を図る。 【目標指数】 A＋Bの合計が80%以上	ホームページやPTAだよりにより、本校の教育活動やPTA活動の様子が A:よくわかった。 B:ある程度わかった。 C:あまりわからなかった。 D:わからなかった。	A＋Bの合計が80%未満の場合は、改善策を検討する。	保護者
7 読書支援 〔図書渉外部〕	学校図書館の環境整備および読書活動の充実に努める。	①図書および資料の整備と充実に努める。	足繁く図書館に通い本に親しむ生徒がいる一方で、図書館を有効に活用できていない生徒もいる。 生徒の読書意欲を喚起し、図書館の利用促進を図るため、「Library 親」や「新刊案内」による広報活動、魅力的な図書・資料の整備と充実に取り組む。	【取組指標】 図書の購入について相談や要求を受けやすくする。 【目標指数】 A＋Bの合計が90%以上	図書の購入についての相談や要求は A:しやすい。 B:おおむねしやすい。 C:少ししにくい。 D:しにくい。	A＋Bの合計が90%未満の場合は、改善策を検討する。	教職員
				【成果指標】 図書館や学級文庫の本を充実させる。 【目標指数】 A＋Bの合計が90%以上	図書館や学級文庫の本は読みたいものや参考になるものが A:よく揃っている。 B:ある程度揃っている。 C:あまり揃っていない。 D:揃っていない。	A＋Bの合計が90%未満の場合は、改善策を検討する。	生徒
		②朝読書をはじめとした読書活動の充実および読書マナーの向上に努める。	本校の朝読書に対する取組は、「朝の読書大賞」を受賞するなど全国的にも高く評価されている。 平成16年から継続して実践しており、どの学年も積極的に取り組んでいる。 今後も、生徒の興味・関心を引くような学級文庫の設置を行いながら、生徒の読書習慣の確立に努めるとともに、読書活動の充実および読書マナーの向上を図っていく。	【取組指標】 朝読書や読書マナーについて指導する。 【目標指数】 A＋Bの合計が90%以上	朝読書や読書マナーについて A:積極的に指導している。 B:必要に応じて指導している。 C:あまり指導していない。 D:指導していない。	A＋Bの合計が90%未満の場合は、改善策を検討する。	教職員
				【成果指標】 朝読書に積極的に取り組む。 【目標指数】 A＋Bの合計が85%以上	朝読書に積極的に A:取り組んでいる。 B:ある程度取り組んでいる。 C:あまり取り組んでいない。 D:取り組んでいない。	A＋Bの合計が85%未満の場合は、改善策を検討する。	生徒
				【満足度指標】 朝読書と読書習慣についての保護者の見方を把握する。 【目標指数】 A＋Bの合計が80%以上	朝読書は読書習慣に A:効果があると思う。 B:ある程度効果があると思う。 C:あまり効果はないと思う。 D:効果がないと思う。	A＋Bの合計が80%未満の場合は、改善策を検討する。	保護者

項　目 〔校務分掌〕	重点目標	具体的取組	現状と課題	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	回答者
8 探究支援・授業改善 〔授業改善・IPT企画室〕	総合的な探究の時間における課題探究活動の充実と各教科学習における授業力向上に努める。	①探究支援 総合的な探究の時間における課題探究活動に主体的に取り組ませ,課題解決力の育成に努める。	探究のサイクルを踏まえて、充実した課題探究を行うことができている生徒がいる一方で、調べ学習で終わっている生徒がおり、このような生徒に探究のサイクルを身に付けさせることが課題である。細目に生徒に探究活動を振り返らせ、探究サイクルを踏まえた課題探究ができるように努める。	【取組指標】 IPTの時間や面談の時間等を活用し、課題探究の取り組みについて確認し、探究のサイクルを踏まえた活動を支援する。	IPTの時間や面談の時間などを利用し、課題探究の進め方や進捗状況等について A:確認し、探究活動か深まるように意識して頻繁に声掛けができている。 B:確認し、探究活動が深まるように意識して声掛けができている。 C:確認している。 D:確認できていない。	A＋Bの合計が70％未満の場合は、改善策を検討する。	担任・副担任 （1年一般クラスを除く）
				【目標指数】 A＋Bの合計が70％以上			
				【成果指標】 課題探究やディベート等、IPTの時間に行う活動に積極的に取り組む	課題探究やディベート等IPTの時間に行われる活動に A:積極的に取り組んでいる。 B:取り組んでいる。 C:あまり取り組んでいない。 D:取り組んでいない。	A＋Bの合計が70％未満の場合は、改善策を検討する。	生徒
				【目標指数】 A＋Bの合計が70％以上			
		②授業改善 ICT を活用し授業や課外活動等の校内活動の改善に努める。	タブレット端末を生徒・教職員ともに一人一台配付したことで、あらゆる活動で ICT を活用できる環境が整ったが、活用の頻度等に個人差があり、全員が効果的に活用できているとは言えない。授業、学校行事および部活動など、生徒・教職員が円滑に活動ができるように積極的なICT活用を呼びかけ、その実践の蓄積と普及に努める。	【取組指標】 授業や部活動など、円滑にできるように、積極的にICTを活用する。	授業や部活動などの学校の諸活動において、ICTを A:積極的に活用している。 B:ある程度活用している。 C:あまり活用していない。 D:活用していない。	A＋Bの合計が70％未満の場合は、改善策を検討する。	教職員
				【目標指数】 A＋Bの合計が70％以上			
				【成果指標】 校内外において、積極的にICTを活用する。	家庭学習、部活動、学校行事および探究活動等においてICT（クロームブックやクラスルーム、グーグルアプリ、動画教材等）を A:授業外でも自身の必要に応じてさまざまな場面で活用している。 B:授業外でも自身の必要に応じて活用することがある。 C:授業中のみ活用している。 D:活用していない。	A＋Bの合計が70％未満の場合は、改善策を検討する。	生徒
				【目標指数】 A＋Bの合計が70％以上			